

シニア演劇ネットワーク

通信



第6号

2013年
いつのまにか秋号

発行・NPO法人シニア演劇ネットワーク

〒160-0001 東京都新宿区片町1-1 パレ・クリスタル 401 電話：090-8083-6888



山形県川西町 フレンドリープラザ



宮城県仙台市 日立システムズホール

2015年第3回全国シニア演劇大会 開催候補地きまる！

2013年の南アルプス大会が終わってまだ数か月ですが、「演劇が好き！」というシニア世代の熱い気持ちは、すでに次の開催地へ向かっています。いま、開催を検討して下さっている場所へ、劇場を見学させていただき、お話を聞いてきましたので、劇団員の皆様でこの情報を共有し、2015年大会の参加の検討材料にいただければと思います。

当初、候補としてあがったのは3か所でしたが、7月と8月に視察、現地の劇団の方々や、劇場の方たちと話し合いをし、実際に候補地としてあげることができるかをお互いに検討した結果、宮城県仙台市（地元劇団は「まんざら」と、山形県川西町（「川西町フレンドリープラザシニア劇団」）が候補として残りしました。この2か所について、サポート劇団で意見を出し合い、今年の暮れには開催地の内定をしたいと思えます。では、2か所についての報告をしたいと思えます。検討のポイントは①劇場の立地と設備②地元の劇団の思い③地元の市や町のバックアップ、です。

2か所各々に話し合った結果、双方に共通していることは、開催期間を3〜4日にし、参加劇団を9劇団以内にしぼる、

ということでした。これは過去の6日間16公演から大きく減少しますが、確実に客席を埋め、地元のお手伝いをして下さる方たちがエネルギーを持続できること、そしてなによりも、参加劇団どうしが交流を図るために、なるべく全日程滞在することを考えて出された案です。次回は、各劇団がお互いの公演をしっかりと鑑賞しあうだけの時間の余裕をもって参加することが必須条件になりそうです。

▼宮城県仙台市（7月25日視察）

朝から市内3カ所の劇場を見学。その合間に、地元劇団であり、南アルプス大会に参加した「まんざら」さんの稽古場を訪問、みなさんに、劇場へのアクセスについて聞いてみました。お客様の多くはシニアであろうことを考慮し、皆様のご意見は日立システムズホールの「シアターホール」がいいのではないかと、というご意見でした。

★日立システムズホール「シアターホール」

客席584席（車いす席6席を含む）
楽屋6室

仙台市から指定管理者の指定を受け、公益財団法人仙台市民文化事業団が管理運営を行っています。

アクセス：仙台駅から市営地下鉄・泉中

●全国シニア演劇大会 in 南アルプス（2013年）の記録DVDが、年末に出来上がる予定です。

●ただいま、ご予約を承っております。1本2000円です。思い出に、どうぞお求めください。

●2011年の東京大会のDVD「シニアの花道」も、好評発売中！（1500円）

●お申し込み方法 お名前、ご住所、お電話番号、本数を明記し、FAXで03-6908-6117まで送信してください。



中央方面行き10分「旭ヶ丘駅」下車、徒歩3分。最寄バス停からも徒歩2分。地元のシニア世代にとっても足の運びやすい場所の様です。館内：コンサートホールや会議室など多数の施設機能があり、カフェレストランもあります。楽屋も広く充実していました。

★せんだい演劇工房10-BOX 高橋泰祐氏より（仙台市市民文化事業団演劇振興課）
仙台での「全国シニア演劇大会」開催について

仙台市では演劇のもつ様々な可能性に着目し、高齢者の介護予防と生涯学習の啓発、そして生きがいづくりのために、平成22年度から24年度の3年間、『仙台市高齢者演劇事業』を実施した。ここから「シニア劇団まんざら」が誕生し、24年度には市民センターの生涯学習事業「シニア演劇ワークショップ」で指導側でのサポーターを務めるなど、多くの市民に演劇の面白さと健康への有用性を示す大きな役割を果たした。そして2013（平成25）年には初の自主公演を仙台で行い、また第2回全国シニア演劇大会への出場を果たした。この背景には、仙台市と仙台市市民文化事業団が実施してきた「劇都仙台」事業があり、また1997年に作家・演出家の故石川裕人氏が全国にさががけて実施した高齢者俳優養成企画「エイジング・アタック！プロジェクト」があった。

仙台市市民文化事業団では1987年から

「舞台技術養成講座」事業に着手し、舞台表現全体を支える人材を育成してきた。また高校演劇協議会への技術支援にも携わってきた。仙台市内には現在約40の劇団があり、高校演劇も盛んである。そのネットワークは有機的で、さまざまなプロジェクトや協力体制を即座に構築できる可能性を持っている。例えば2011年の震災直後に、仙台の演劇・舞台表現活動者たちが集まりアートトリバイバルコネクション東北、略称ARCT（あるくと）を立ち上げ、被災地へのさまざまな支援を行い、現在もその活動を継続している。

全国シニア演劇大会が仙台で開催された場合、仙台市の現状からは予算を拠出することは難しいが、せんだい演劇工房10-BOXとしては、広報活動の支援、チケットの配券管理、舞台スタッフや制作スタッフの斡旋、当日の運営スタッフの手配などが可能である。先述の人的資源やこれまでのノウハウを上手く運用することができれば、様々な世代の演劇人とこれまで演劇を知らなかった人たちとの間に、新たな交流を生み出す有意義なフェスティバルとなるであろう。

▼山形県川西町（8月16日視察）

東京から新幹線で米沢へ、そこから米坂線で約20分の羽前小松に下車。駅から見える距離（徒歩4分）にフレンドリープラザがあります。劇場はかなり広いのですが、間仕切りをするなどの工夫を提案してくださいました。

ここで、フレンドリープラザシニア劇団1期生の皆さん、館内職員の方々、そして川西町まちづくり課の方と話し合いをしました。

★川西町フレンドリープラザ
客席数712席（他に母子席5）

楽屋 4部屋

アクセス：仙台から東北・山形新幹線で米沢駅まで約55分。米沢駅からJR米坂線で羽前小松駅まで18分。山形新幹線赤湯駅で下車、タクシーで約15分。羽前小松駅下車徒歩5分。車では、仙台市から山形自動車道・国道13号経由で約2時間。新潟市から国道7号・国道113号・国道287号経由で約3時間。喜多方市から国道121号経由で約1時間。

館内：大小合わせて4つの楽屋、ロビー、広い搬入スペースと駐車場があります。また、隣接している図書館があります。近隣：歩いてすぐのところに飲食店が3店舗あります。宿泊施設は離れているため、車で送迎が必要です。米沢まで行く（車で40分）と温泉街があります。

★川西町としての考え方

山形県川西町は、あの井上ひさし氏が生まれ育った町。氏が遺した20万点の蔵書と演劇に特化したホールが自慢です。

とはいえ、いかにせん人口17000人弱の小さな町、大会運営に対しての経済的な支援で期待に応えることは困難ですし、プロの役者さんから見巧者とお褒めいただく観客さ

え人数は限られてしまいます。正直いって、開催期間も3日程度が精一杯です。

ただし、演劇に情熱を燃やす高校生や劇団関係者はじめ、行政や地域の方々と一緒に手作りのおもてなしでみなさんをお迎えすることはお約束いたします。

東京からは山形新幹線と在来線乗り継いで2時間半。周囲を2000メートル級の山々に囲まれた田園地帯のへそにあるこの町、お米や牛肉はじめ、旬の農産物は枚挙に暇がありません。ああ、4軒の造り酒屋がある日本酒の町でもありました。ぜひ、たくさんの友人や知人を誘ってお越しくださいませんか。演劇でのまちおこしを目指すわたしたちと一緒に、全国大会の舞台で元気に輝きましよう！

★フレンドリープラザシニア演劇学校講師の河原俊雄氏より

シニア演劇全国大会川西招致の意義

①演劇の町「川西」に歩み出す一歩に！

▼故井上ひさしさんの故郷として、また、氏が深く関わったフレンドリープラザを持つ町として、演劇を通じた町作りは、町活性化の大きな目玉になる。

▼開館当初、東北における有数の演劇拠点として多くの公演誘致、演劇学校の開校など、各地から注目される活動を展開したフレンドリープラザであったが、近年は町の緊縮財政もあり、往年の勢いを失いつつある。

▼一方、フレンドリープラザには井上さんゆかりの遅筆堂文庫も併設されており、

ますますその多岐にわたる活用が望まれている。

▼シニア演劇全国大会は北は青森から南は九州まで全国から演劇に情熱を傾けるシニア劇団員多数が参加する。これら多くの来町者に演劇の町、川西を胸に刻んで帰ってもらえる。

▼また、これまでのプラザファンを引き付けることでさらに多くの方々の来町が期待される。

▼川西町からの出演劇団（後述）への参加や、実行委員会の活動を通して、演劇を川西町の宝として大切に育てる意識が高まる。

▼これをきっかけとして、シニアから、小学校、中学校へと演劇を広めていける。

▼すでに町内の置賜農業高等学校演劇部の活動は広く定評のあるところであり、また、フレンドリープラザ子ども演劇学校も長い実績を誇っている。それらの活動にシニア、小中学校での演劇活動が加わることにより、演劇の町「川西」が名実ともに認められる一歩を踏み出すことになろう。

②シニアが元気な町「川西」を演劇から！

▼参加劇団には90歳を越える超高齢者もあり、平均70歳近い出演者の熱演は多くの町民に感動とともに元気を与えてくれるであろう。

▼増加するシニア演劇人口

・川西町にはすでにフレンドリープラザシニア演劇学校が開校しており、すでに二期生が11月本番に向けて熱心に稽古、装置作りに取り組んでいる。作品はオリジナルミュージカル『ラ・グリシヤ クロニクル』河原俊雄作・演出、知野礼美（東北文教大学）作曲

・一期生は修了後、アマチュア劇団菜の花座内でシニア劇団を結成し、9月15日（日）には第一回公演を菜の花座と合同で実施する。

・一期生7名、二期生10名とシニア演劇学校の存在が周知されるとともに参加希望者は増加しており、来年度の第三期もこれまでを上回る受講生が見込まれる。

・全国大会の町内開催が決まれば、さらに広く町内外から参加を募り、40～50名規模での作品を制作し、ご覧いただくことになるはずである。

▼町内外シニアの貴重な交流機会を生み出すことができる。

・町内出演者、実行委員と全国からの参加者との交流が期待される。

・公演の合間に町芸術文化協会所属の各種芸術団体や置賜農業高等学校演劇部のミニ公演をロビーで披露してもらい、異分野のシニアの方々にも交流に加わってもらうことが可能である。

▼演劇を皮切りとして、シニアの方々に演

ずる喜び、表現する充実感をさらに高めたいいただき、表現活動を通してシニアの元気な川西町を作ることができる。

③実行委員会の構成について考えられること。

▼実行委員会の中核は、シニア演劇学校生徒（修了生・在校生）及び川西町作品出演者 30～50名

▼川西町演劇関係者：川西町演劇研究会・劇団菜の花座・置賜農業高等学校演劇部

フレンドリープラザ子ども演劇学校保護者 50～70名

▼川西町芸術文化協会

▼川西町老人クラブ

▼川西町・フレンドリープラザ

みなさん、いかがですか？ それぞれの劇場がホームページに詳しく図面や施設案内を載せていますので、参考にしてみてください。

南アルプス大会文化庁への決算報告終了！

10月15日によりやく文化庁への全書類の提出を終えることができました。予算書の最終審査が7月下旬にやっと通ったこと、予算の段階と担当者が変わったこと、それに伴い、経費として計上できるもの、できないものの認識が変わったこと、それから私自身のパソコン操作に時間がかかったこと、などが原因で、4か月という月日がかかってしまいました。南アルプス市役所からの交付金で、交通費をお支払できる分は、すでにお支払いを済ませました。11月5日、文化庁からの助成金が振り込まれ次第、残りの3劇団へのお振込をすることになっています。

日立システムズホール仙台 www.bunka.city.sendai.jp/seinenbunka
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5

フレンドリープラザ www.plaza-books.jp
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松 1037-1

今回は福井県で活躍する2劇団をご紹介します。

◆劇団ババーズ (福井市蔵作町)

団員16名(男性2名、女性14名)
設立年 2002年2月

設立以来、トータル公演数260回を越え、ますます元気であるが、平均年齢が八十歳に近くなったので、足の痛いものや連れ合いが病気になったもの等があり、このあたりが限界かとも思われるが、要請は絶え間がない。

本年10月だけでも5回の公演があり、県内の各自治体で公演しないところがなくなくなり、同じ自治体に数回も公演することがある。県外公演も、全国シニア演劇大会初め10回以上になっている。

尚、県内公演でも、福井県で行われる全国記念大会(有機農業全国大会・東海北陸公民館大会)等の出演が多い。



12年間の公演で、声が大きくなり、記憶力がよくなり、病気がよくなる等元気で若返りも見られるようになった。

◆コール・頻伽演劇部 (鯖江市) 団員15名

設立年 2010年



私共の劇団は、最初合唱をやる目的で集まっております。「コール・頻伽」と名付け、合唱も続けております。会員が歌のほかに芸達者がおられることが次第に分かり、では素人劇団をやってみようか…とのことで、始めました。シナリオ、衣装、幕まですべて手作りということから始めました。最近では地獄、極楽も遠く離れた時代に生きておりますので、今一度、現実の娑婆世界から命が離れ、地獄門にいる閻魔王の前に出てお裁きを受け、地獄行きか極楽行きかそれとも…というようなストーリーにしました。1幕目は6人が登場し、閻魔王と会話します。浄瑠璃の鑑に映し出される登場人物の過去の様子を踏まえ、いろいろ聞きだし、そして大王が裁いてゆきます。一人一人を特徴ある人物に仕立て上げ、コミカルにして笑いが取れるようにしてあります。2幕目は一人だけが極楽浄土への道を歩み、極楽で両親に出会うシーンになっております。最初はお寺でやりましたが、口コミで広がり、今はお寺や公民館、福祉センター等々で公演しております。まだまだ未熟な劇団でございますが、今後よろしくお願いいたします。

レポート

かんじゆく座(東京都)が朗読劇の出張公演を行いました!

かんじゆく座は毎年秋に、地元の施設や文化祭で、朗読劇の出張公演を行っています。2チームにわかれ、4か所で発表しました。演目は宮澤賢治「なめとこ山の熊」や大佛次郎「スイッチヨねこ」などです。動物の役が多く、耳や尻尾を付けて演じたためでしょうか、子供からも喜んでいただくことができました。当日はカターのアルジャジーラ放送が取材に来て、座員はびっくり! 中東で放送されるそうです。

◎投稿募集◎

稽古の様、観劇の感想、公演の報告など、お寄せください。

Eメール: kujiraema@krd.biglobe.ne.jp

FAX: 03-6908-6117

※劇団名、御名前もお書きください。ニックネームでも構いません。

←←サポーター募集↓↓

NPO法人シニア演劇ネットワークではシニア演劇大会をともに作ってくださる劇団さん、応援して下さる個人の方を募集しています。皆様の積極的なご参加を、お待ちしております。

お電話: シニア演劇ネットワーク事務局 090-8083-6888

会費お振込先: 特定非営利活動法人 シニア演劇ネットワーク

郵便局から: 記号 10130 番号 11855381

他金融機関から: 店名 〇一八(ゼロイチ八チ) 店番 018(普通預金) □座番号 1185538

種類	年会費	特典
サポーター 劇団	(個人) 五千元	●年4回の通信を郵送いたします(団体構成人数分を送らせていただきます)。 ●全国シニア演劇大会開催に当たり、事前会議、座長会議などへの参加が可能です。 ●全国大会に参加した場合、資金援助が優先的に受けられます。(支援額は大会によって異なります)。
サポーター 会員	(個人) 五千元	●年4回の通信を郵送いたします。 ●全国シニア演劇大会の交流会に優先的に参加できます。

編集後記

台風が来るたびに、地震がおきるたびに、その地方のシニア劇団さんのことを思い出し、気が気ではありません。電話しても煩わしいだけかなと思いつつも、やはり心配で電話してみると、思いのほかお元気で、ほっと胸をなでおろす…ということが、6月以降数回ありました。何か起きた時には、支援できるような関係性を築いてゆければいいなと思います。そして、いつ起きるか分からない自然の猛威の前に、だからこそ、毎日の創作に打ち込み、充実した時間を過ごしたいと改めて思っています。

(鯨)